

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531186

研究課題名(和文) 教師教育における「アート」教材の意義 - 「場」と「仕掛け」 - を重視する教材の有効性

研究課題名(英文) The Significance of [Art] Teaching Materials in Teacher Education

研究代表者

加藤 泰樹 (KATO, Yasuki)

上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・教授

研究者番号：30224546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、教師教育のための「アート教材」を開発し、その評価方法についても検討した。特に、教師の「からだ」に着目し、その実践知を支える即興的な対応力を育てることをねらいとした。一方で、津村禮次郎氏(能楽師)、山海塾の蝉丸氏(舞踏家)、遠藤卓郎氏(ボディワーク・気)を招聘し、ワークショップを行い、「からだ」の学びや気づきについて検討した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we make “teaching materials of art education” for teacher education. We focus on the bodies of teachers, and examine the ability of improvisation. On the other hand, we invite Reijirou Tsumura(Nou), Semimaru(a member of Sankaijuku,Butoh)and Takuro Endo(Body work, 'Ki'). We promote their workshop, and examine “body” awareness.

研究分野：身体教育 体育哲学

キーワード：教師教育 アート教育 からだ 場 仕掛け

1. 研究開始当初の背景

(1) 教師教育とアート教育

教員養成において教育実践力の育成が求められる昨今、教師が経験を重ねるにつれて、職能発達としてどのような力を身につけていくのかを問う必要があるだろう。教師の実践知の習得に関して、身体にかかわる「アート」教育での成果が何らかの意味を持つのではないかという問題意識から本研究が構想された。ここでいう「アート」教育は、音楽・美術・体育などの既存の教科やジャンルで区切られる芸術芸能教育ではなく、身体背に根差した表現・コミュニケーション教育のことを指し、その教材を開発することは、教師の資質を育て、高める一助になると予測したのであった。

(2) 大学院生を対象とした実施

特に本研究では、大学院生(教職大学院院生を含む)を対象に「アート」教材を用いた授業を実践することとした。それは、現職教員、教員免許を持つストレートマスター、免許を取得しながら学ぶ、ストレートマスターという異なる実践知を持つ受講生が新しくどのような学びを積み重ねていくのかを明らかにするとともに、特に教職大学院という「実践を重視する教育課程」の中での有効性を実証し、教師の身体性についての学びを実現したいと考えたのであった。

2. 研究の目的

本研究では、教師の身体に着目した「アート」教材を開発し、大学院及び教職大学院の授業で実施し、その意義を明らかにすることを目的とした。

研究期間を通じて、教師教育における実践知の姿を分析し、その実践知を形成するための教材を開発し、改善することが目指された。

その教材を「アート」教材と定義づけ、実際に授業で実施、その有効性及び評価法等についても検討していくこととした。

3. 研究の方法

(1) アート教材の開発と実施

研究計画段階では、毎年開講されていた大学院の授業が隔年開講になる等の大学のカリキュラム変更があったことから、教材開発と実施、検証を行うという当初の計画は、授業が開講された年度に行わ

れた。(授業が行われたのは、初年度と最終年度であった。)

(2) 「からだ」の気づきと学びを促すワークショップの開催

一方で、毎年、講師を招聘して、本研究組織の教員、現職及び教師を目指す大学院生、及び教員養成課程の学部生を対象に「からだ」の学びや気づきを促すワークショップを開催した。

4. 研究成果

(1) 初年度の成果

初年度は、年間を通じて、全員で、身体論関係・教師教育関係・芸術学関係の文献資料を蒐集し、その内容の検討を行った。さらに、後期の大学院共通科目授業「人間科学と教材研究」及び教職大学院「身体教育学演習」の授業において「場」と「仕掛け」を重視した「アート」教材を構想して授業を展開し、受講者のレポートをもとに授業の振り返りを行った。それぞれの授業の記録と受講生のレポートにおける記述を質的に分析し、教材の有効性を検討した。これまでの検討では有効性が認められるものの、さらに詳細な分析を行いながら、来年度の研究に向けての問題について検討を加えた。

また、シテ方観世流能楽師 津村禮次郎を講師に招き、日本伝統音楽(能楽)の歴史と表現の基礎についての解説と身体を使つてのワークショップを開催することができた。大学院生約20名が参加し、能楽の表現法を体験することを通して、教師のからだに着目した「アート」教材の一つの試みを体験することができたといえる。このような日本の伝統芸能における身体と空間の有り様を例として、「場」と「仕掛け」との関係を考え、「アート」教材を開発していくことで、新しい教材の可能性が見えてきたと考える。

(2) 次年度の成果

次年度は、前年度に蒐集した身体論関係・教師教育関係・芸術学関係の文献資料の購読会を行うとともに、本研究で開発を目指す「アート教材」の捉え方についての研究討議を行った。また、前年度「人間科学と教材開発」の授業で実施した「教材」の有効性を検証するとともに、その改善と新たな「アート教材」の開発を試みた。残念ながら、大学の授業実施の関係で、授業が開講されず、開発された教材の実施は最終年度に見送ることとなった。

しかしながら舞踏のグループ「山海塾」

の初期からのメンバーである蝉丸氏を講師として招聘し、「何がからだを動かすのか？」と題して、ワークショップとディスカッションを行うことができた。大学院生約20名、本学教員5名が参加し、舞踏の身体技法を体験することを通して、教師のからだに着目することの重要性を再確認することができた。「舞踏」のワークショップの体験を共有した上でのディスカッションは、身体と床の関係、自己と他者の関係を、「場」や「仕掛け」といったキーワードから捉え直す試みとなった。

舞踏は、日本から生まれて、世界に発信したコンテンポラリー・ダンスとして評価も高く、前年度の日本の伝統文化のワークショップとのつながりについて、講師も含め、研究組織で討議したことは非常に有益であった。

(3) 最終年度の成果

最終年度は、大学院共通科目授業「人間科学と教材研究」でこれまで、開発・改善してきた「アート」教材を試行し、受講者のレポートからその有効性を検討した。開発した教材は下記の4つのまとめとして、提案、試行された。

かかわって描く
かかわってつくる
からだのかたち・かたちの表現
モノをつくる・モノとかかわる

上記に示した「アート」教材について、それぞれの教材の意義を明確にするとともに、実施順序等についても、検討がなされた。特に、からだのかたち・かたちの表現の実施については、受講者から、新たな気づきや学びの報告が多くあり、複合的な視点からの振り返りの可能性が示唆されたことから、「評価」について、新たな取組みがなされた。

また、受講者らから、評価法が問われたことから、「からだ」の教育等に造詣の深い筑波大学名誉教授遠藤卓郎氏を招聘し、ワークショップの実施のみならず、評価についての討議を行った。ワークショップには例年通り、大学院生20名及び本研究組織の教員が参加した。ポディーワークの実践では、様々な「アート」教材に取り組む中で、いかに自己と他者が「からだ」の次元でかかわりあっているかを体験することができ、ワークショップ参加以前と参加後の受講者の人間関係の広がりと深まりをお互いにディスカッションすることを通して、さらに「評価」として汲み上げられる領域を検討することができた。

(4) 研究期間を通じての成果

研究期間を通じて、「アート」教材を開発、実施、改善することができ、研究計画時には構想していなかった評価法についても検討できた。また、ワークショップを通じて、教師教育において「からだ」の学びや気づきを促すことの重要性を再確認することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤泰樹 (KATO Yasuki)
上越教育大学学校教育研究科 教授
研究者番号：30224546

(2) 研究分担者

阿部靖子 (ABE Yasuko)
上越教育大学学校教育研究科 教授
研究者番号：00212556

大橋奈希左 (OHASHI Nagisa)
上越教育大学学校教育研究科 准教授
研究者番号：90283043

玉村 恭 (TAMAMURA Kyo)
上越教育大学学校教育研究科 准教授
研究者番号：50575909

(3) 連携研究者

()

研究者番号：